

【第1回】石狩市総合戦略推進懇話会開催結果報告書

平成29年8月18日

【日時】 平成29年7月25日（火）15:00～17:00

【場所】 石狩市役所4階401会議室

【出席者】 14名（16名中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	角川 幸治	○	委員	佐藤 勝彦	○	委員	林 美香子	○
副会長	竹口 尊	○	委員	白井 かの子	○	委員	原 俊彦	○
委員	木村 秀裕	○	委員	高梨 朝靖	○	委員	向田 久美	○
委員	河野 明美	×	委員	徳光 康宏	○	委員	山本 秀俊	○
委員	小林 卓也	○	委員	芳賀 武士	○			
委員	酒井 志津子	○	委員	浜野 俊介	×			

※正副会長を除き、あいうえお順

□オブザーバー 北海道石狩振興局地域創生部：渡邊部長

□事務局 石狩市企画経済部：小鷹部長、本間企画課長、池内企画担当主査、橋本企画担当主任

【傍聴者】 0名

【次第】 1. 開会

2. 総合戦略推進懇話会について（事務局説明、意見交換）

・概要・スケジュール等について【資料1】

・平成28年度実施事業の点検・評価等について【資料2】

3. その他

4. 閉会

==== 会議内容の記録 =====

以下、○は委員発言要旨、●は事務局発言要旨。

1. 開会

2. 総合戦略推進懇話会について

●「概要・スケジュール」について事務局より説明【資料1参照】

●平成28年度実施事業の点検・評価等について【資料2参照】

質疑・意見

<「平成28年度実施事業一覧（資料2）」に基づき実施事業の点検・評価>

※戦略目標毎に点検・評価を実施。「No.」については、資料2の左側に記載している番号

【戦略目標1 「新現役世代」が活躍する】

（1ページ：No.1 具体的な事業「町内会カレッジ」について）

○平成27・28年度の実績は「0」だが、町内カレッジの講座は実施していないからなのか。また、町内会カレッジの規模は連合町内会、それとも単位町内会なのか。

●平成 31 年度の実施に向け取り進めているが、現時点では実施段階に至っていないため実績は「0」である。町内会カレッジの所管課からは単位町内会を考えていると聞いている。

○連合町内会で企画して、単位町内会の持ち回りで実施する。単位町内会が自主的に実施することはかなり難しいと思う。

○町内会は高齢者クラブ等と連携し、色々な講座を会館で実施している。市民カレッジは教育委員会が所管だと思うが、市民カレッジのカテゴリーの中しか把握していないと思うため、高齢者支援課など関係部署が実施している講座の実態を把握すべきでないのか。

○平成 28 年度の実績内容の記載が「関係機関や団体と連携し検討した」とすごく大雑把である。平成 29 年度も「連携し検討する」としているが、例えば何回打合せをして検討したのかなど実績値を記載し、市民が理解できるように具体的な表現にしたほうが良いと思う。

(1 ページ : No.2 具体的な事業「新現役世代と地域・高齢者を結ぶサポートセンター機能」について)

○「関係機関と調整を図る。」というのは市役所の言葉だと思うので、市民が理解できるように具体的な表現にしたほうが良いと思う。

○高齢者が地域包括支援センターに漠然とした悩みを相談するケースが増えていると聞いている。高齢者の不安を解消する相談窓口の設置等を含めた仕組みづくりが今早急に求められていると思うため検討してはどうか。

(1 ページ : No.6 具体的な事業「地域自治システム検討事業」について)

○地域自治システムのモデル事業を実施しているなかで、公園を活用した高齢者サロンを実施している。建設現場で使うスーパーハウスを公園に設置して、6月19日から月・水・金の9時から17時オープンしており、今年の11月上旬まで実施する予定である。運営スタッフやサロンに来てもらうなど地域の方々の参加意識を高めるためワークショップを2回実施した結果、1日平均20~30人、運営は1日3班に分け当番制にして2~3人のスタッフの方に無償で手伝ってもらっている。

また、毎週水曜日「魚やくまさん」が移動販売で来ており、厚田の新鮮な魚等が人気となっている。

公園を活用した高齢者サロンについては、成功すれば常設でシーズン通して実施したいと考えている。

【戦略目標2 「子育て力」をさらに発揮する】

(2 ページ : No.10 具体的な事業「農漁業者結婚支援事業」について)

○農業者男性の参加意欲が低下しているため、農漁業者を絞らず多業種の人に参加できるようにしてはどうか。

○農業者の婚活に関しては婚活イベントだけでなく、婚活に望むためのセミナーを実施している地域もあるため、石狩市でもセミナーを実施してはどうか。

○もう一つは女性を募集する際に、どんなイベントでどんな人が参加しますといった事業の内容を精査したり魅力を打ち出さなければ女性は集まらないと思う。また、例えばJAだとかかりつけの病院がある

ため、その病院の看護師の方に声をかけて実施する、そうすれば普段から農業者の方が出入りしている
ので、少なからず農業への理解もあつたりするなど、募集する女性も業種等でターゲットを絞って実施
することを考えてはどうか。

- 平成29年度の事業の枠組みが固まっている場合は難しいかも知れないが、来年度の予算編成には間に
合うため、懇話会の意見等踏まえて検討するよう所管課に確認してみる。

(2ページ: No.13 具体的な事業「認定子ども園」について)

○認定こども園は11園であるため評価は「S」ではないのか。

- 平成28年度は認定こども園に移行したのが5園、平成29年度移行に向け準備したのが6園であり、平
成28年度の実績としては5園となるためKPIは達成していない。平成29年度中に11園となる見込
みである。

(2ページ: No.14 具体的な事業「不妊症・不育症治療費の助成」について)

○これからの出生対策になるのではないかと考えているため、相談しやすい体制を取ったほうが良いと思
う。

【戦略目標3 「地域資源」からモノやしごとを創る】

(3ページ: No.25・26 具体的な事業「新規振興作物の開発」・「加工品の開発支援」について)

○石狩には良い地域資源はあるが、継続的に売れる商品をつくるためには、プロの意見も必要だが地元で
製造・加工できるサイクルが必要だと思う。

施設をつくるのであれば、その地域に人を呼び込むための住む場所など枠組みをつくらなければならない
と思うため、総合的な計画を立ててやらなければならないと進まないと思う。急いでやらないと加工す
る担い手もいなくなると思う。

○石狩は空き家対策や担い手対策など良いことを実施していると感じるが、それぞれが単体で実施してお
り、それをまとめることができたなら良いと思う。

- 少なくとも流通や売買業界というところに載るような商品を作ることや、販売していかなければなら
ないと思っており、それをつなげるために民間の知恵などを借りてやらなければならないと考えている。

○新規振興作物の開発に関しては、落花生を三戸の農家で作付け予定など具体的に記載しているが、スイ
ーツに関しては市内のお菓子屋など具体的な記載が無い。例えば、砂川のお菓子屋が滝川の農家と連携
し宣伝したりしているが、スイーツをつくる場合、市内お菓子屋と連携して取り組むことはできないの
か。

(3ページ: No.27 具体的な事業「いしかり食と農の未来づくり事業」について)

○いしかり農水産物エキスパート養成事業の修了者はその後どういう活動をしているのか。

- 本事業は、農業への理解と石狩農産物の消費喚起をターゲットにしているが、本事業を通じて石狩の農

産物を知る機会や農家で野菜をつくったりすることで、修了者には石狩の農業の後押し、農家のファンになっていただいている。

○意欲があって勉強された修了者を次のステップにいけるような仕組みをつくってはどうか。エキスパート修了者が活躍できるような仕組みがあれば地域も変わるのではないかと思う。また、市内に加工場が無く、農産物をつくっても市外で加工するのでもったいない。

●地域就農を増やすといった事業は別にあるが、エキスパート養成事業が次に繋がる戦略を検討したいと思う。また、加工場については、地域で「商い」として行う事業者・人がいないため、企業誘致等と連携しながら行いたい。

○厚田や浜益で担い手が不足しているため、講座修了者等を果樹園などに短期で手伝いに来るような事業に発展させることはできないのか。

●過去にさくらんぼの収穫のため旧石狩市域から浜益まで手伝いに行ったことがあったと思うが、なかなか距離というものが縮められなく事業として続かなかった。これからは人口、担い手を増やすために、住まいや働く機会など冬場も含めて考えていかなければならないと思う。

○浜益は、農業も漁業も夏が非常に忙しくて人の奪い合いである。例えば、空き家対策とマッチングして「夏だけ涼しい大自然の中で働いてアルバイト料を稼ぎませんか」といったことができれば産業として残っていけると思う。

●上手な雇用形態を作れるような仕組みを考えていかなければならないと思う。

(4 ページ : No.30・31・32 具体的な事業「若者人材育成・職場定着支援事業」について)

○札幌市は商工会議所と連携し、夏休みにインターンシップをすることで高校生の意識が変わったと聞いた。セミナーだけでなく、市内企業を知ってもらうためにインターンシップを実施してはどうか。

○求人募集してもなかなか人が来ないとの話を聞くが、平成 28 年度の実績値を見ると非常に就職率が高いと思う。地域の活性化というところを主眼に置いた中でセミナーを実施し、どれだけ地元で数値が繁栄されているのかと感じたところである。

【戦略目標 4 「いろんな顔」をつくる】

(3・4 ページ : No.40・41・42 具体的な事業「あい風プロジェクト(厚田道の駅)」について)

○道の駅は来年春オープンのため具体的に動き出しているが、オープン後の1年間は相当な来客数やメディアへの露出度が増えると思うため、販売商品を確保できるかが一番の懸念である。

厚田地域着地型観光まちづくり協議会は成功していると思う。昨年ニシンを使ったフルコース、お母さん達にニシン漬けの講習等を実施したが、試験的にやるから良いのであって、恒久的に商品を販売して毎年経費をきちんと出すことは至難の業ということがわかった。

【戦略目標5 誇りとなる「人や文化」を育てる】

(7ページ: No.49 具体的な事業「姉妹都市高校生交換留学生事業」について)

- 高校の先生と相談して無理のない参加しやすいものを用意したほうが良い。回数を増やすなど特に中国は近いのでショートステイを実施すると参加者が増えるかもしれない。
- 今年度、国際交流協会では参加しやすいように新たな短期の派遣プログラムを実施し、参加者を募集する予定である。

(7ページ: No.50 具体的な事業「学生ボランティアによる放課後学習事業」について)

- 今の大学生は年代的に苦しい時代であり、アルバイトしなければ学生生活を送れない状況のため、収入に繋がるような有償ボランティアを検討してはどうか。そうするとボランティアは増えると思う。
- 有償ボランティアにして交通費や飲食代を賄えるようにし、仲間達で参加しやすいようにしていくのも一つの手だと思う。また、学生がボランティア活動をすることで将来の就職や学生自身の成長に繋がる内容を検討してはどうか。
- 市民が理解できるようにどの大学のこういった地域活動の情報を収集したといった、具体的な表現にしたほうが良いと思う。

【戦略目標6 時代にあった地域として持続する】

(8ページ: No.62 具体的な事業「空き家活用促進事業」について)

- 個人の財産でもある空き家を把握することが難しいケースもあると思うが、例えば、空き家となった場合届け出しなければならぬような条例を検討してみてもどうか。
恵庭市は「花のまち」として成功したと思うが、石狩市も新たに宅地開発して人を呼び込むことを考えてはどうか。

※以上、点検・評価修了

- 全ての点検・評価が終了したため、改善や見直しが必要である「B評価」については、持ち帰り担当課と検討させていただく。
(B評価: No.1、No.2、No.10、No.26、No.27、No.30、No.50、No.62)

3. その他

4. 閉会

平成29年8月18日 議事録確定

石狩市総合戦略推進懇話会 会長 角川 幸治